

シジュウカラガン 最後の放鳥のための キャンペーン

絶滅の危機から回復のきざしへ・・・



ヒナを育てるシジュウカラガン



群れて飛ぶシジュウカラガンの姿が美しいようにもなっています



● 2004年まで放鳥された日本での地域別放鳥数

シジュウカラガンは、かつては日本全国に広く分布していたが、戦後、農薬の使用や環境の変化により、生息地が大幅に減少し、絶滅の危機に瀕しています。2004年まで放鳥された地域は、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州です。

シジュウカラガン (*Branta canadensis leucoparva*) は、北アメリカの北部に広く分布するカナダガン (*Branta canadensis*) の仲間です。白い頬が特徴のカナダガンは、体の大きさや色などの違いから8つのグループ (亜種) に分類されます。その中でもっとも小型の仲間で、アリューシャン列島で繁殖し、かつては北千島でも繁殖していたのが、シジュウカラガンです。

日本には、かつては大群が飛来し、1930年代までは社台周辺に群れて飛来していました。しかし、繁殖地の千島列島で毛皮を取る目的でキツネが放されたため、その餌食となって急激に数が減り、群れとしての飛来は長らく途絶えていました。

そこで、飼育下で繁殖させて増やしたシジュウカラガンを国内で放鳥し、その渡りを復活する試みが八木山動物公園とともに、1983年に始まりました。一方、ロシアと共同の羽数回復計画も始まり、1995年から、カムチャツカの繁殖施設で生まれた鳥を繁殖地だった北千島のエカルマ島に運び、これまでに500羽以上のシジュウカラガンを放鳥してきました。最近では日本への飛来数は少しずつ増え、家族群も見られるようになりました。昨年度は、一ヶ所で70羽の群れが確認されるまでに回復したため、今年の夏に最後の放鳥を行い、施設を閉鎖することになりました。



日本へ渡って来たシジュウカラガンの群れ

2009年、ロシアのシジュウカラガン繁殖施設が洪水にあい、予定していた最後の放鳥ができなかった。

2008年は資金が不足し、また2009年はカムチャツカの繁殖施設が洪水の被害にあったため、シジュウカラガンの最後の放鳥を実施できませんでした。さらに今年の6月、本事業に長年取り組んできたニコライ・ゲランソフ博士の奥さんが病気のためお亡くなりになりました。

日本での飛来数が100羽に達するまで頑張ると言っていた博士にとって、その成果を夫婦そろって見る事ができないのはとても残念なことで、博士を献身的に支えてきたアラ夫人の死は、大きな痛手に感じられています。

17年継続した繁殖施設は今年9月の放鳥を最後に閉鎖される予定ですが、エカルマ島まで最後の鳥を運ぶヘリコプター代の半額に当たる約100万円がまだ不足しています。その実現のために皆様からの温かいご理解とご支援をお待ちしております。



左：鳥舎の掃除にあつたロシアのシジュウカラガン繁殖施設員。右：ゲランソフ氏

シジュウカラガン、最後の放鳥のために。

今年の9月に、2008・2009年生まれの子鳥を含め最後の放鳥を実施する予定です。

ロシア科学アカデミー
シジュウカラガン繁殖施設

シジュウカラガンをヘリコプターで
放鳥地に運ぶ資金が足りません！

放鳥地 エカルマ島

エカルマ島で放鳥されたシジュウカラガンは
日本で越冬する

越冬地
主に宮城県北部

支援金募集

郵便振替口座

00100-7-176339

雁の里親友の会

「よみがえれシジュウカラガン募金」

募金呼びかけ：日本雁を保護する会、雁の里親友の会

シジュウカラガン 最後の放鳥のための キャンペーン車のデザイン

フロント



正面



飛ベシジュウカラガン！宮城キャラバン隊





エカルマ島での最後の放鳥(2010年9月10日)